

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和3年度 第2回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局 (担当課)	参画協働課		
開催日時	令和3年11月29日(月) 午後7時00分から午後8時30分まで		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、西原千佳子、横谷弘務、 久保田啓子、細見美咲、石伏淳子、大西僚、京極光泰、名畑龍史、 丸谷満、山中彩永	
	その他		
	事務局	石田総合政策部長、金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、 岸本参画協働課長、田中同課主査、和田同課主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事</p> <p style="text-align: center;">(1) 第2期 川西市参画と協働のまちづくり推進計画の検証 について 今回は、基本方針1及び基本方針2</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

19:00～

1 開会

○事務局

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。

なお、本日は全委員が出席されている。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

○岩崎会長

只今、事務局から報告いただいたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

さて、川西市では、参画と協働のまちづくり推進条例の趣旨に沿って推進計画が作られ、様々な参画と協働に関する取組みがなされている。その取組みが適正に行われているのかをチェックすることがこの推進会議の役割の一つである。今回と次回にかけて、委員の皆様から第2期推進計画の評価をいただく。

それでは、議事に入る前に、委員の皆様には事前に事務局から資料が送付されていると思う。資料に目を通していただいておりますが、事務局から資料の確認をお願いしたい。

○事務局

事前にお送りしている資料に加えて、机上に昨年度の推進会議で提案された「トリカワカード」と「待ッティングカード」のサンプルをお配りしている。

2 議事(1) 第2期 川西市参画と協働のまちづくり推進計画の検証について

今回は、基本方針1及び基本方針2

○岩崎会長

それでは、事務局より資料に基づき、説明をいただきたい。

○事務局

本日は皆様に第2期川西市参画と協働のまちづくり推進計画を検証いただき、そこから見てくる今後の課題や次期計画におけるポイントを整理させていただきたいと考えている。

今回は、現計画の内、基本方針1及び基本方針2について、次回は基本方針3について、ご議論いただく。

まず、お配りしている資料に、現計画のこれまでの実績や評価指標との関係についてまとめているのでこちらを簡単にご説明し、その後皆様からご意見をいただく。

< 基本方針1について、配布資料に基づき説明 >

岩崎会長

基本方針1においては6つの取組みがなされており、加えて、昨年度この推進議会から提案された「待ツチングカード」と「トリカワカード」という具体的なツールを活用して担い手の発掘と育成に取り組んでいくというものである。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により中々進んでいないという現状である。対面の活動が封じられる中で、指標も下降傾向にある。

市としては資料のとおり総括されているが、委員の皆様からの意見をお伺いしたい。質問、次期計画へ活かす項目出しなど、いかがだろうか。

○石伏委員

これらの取組みを行った結果、どんな成果が上がったのかを検証する仕組みはあるのか。

○横谷委員

新型コロナウイルス感染症の影響で少人数での会議は出来ているが、事業を行う場合は大規模になるため、中々実施できていないのが現状である。また、コロナ禍における活動は想定していないし、議論も出来ていない状況である。

○事務局

各々の取組みと成果指標が、直接的ではないのでわかりにくくなっているとは感じており、考えていかなければならないものと認識している。現状、具体的なものはない。

○石伏委員

この成果指標は市民実感調査の結果であるということなので、例えば、「こんな取組みからこんな成果が上がっている」と大きく広報できれば、成果指標にも反映されるのではないだろうか。

岩崎会長

色々なコミュニティや自治会が活動を出来るようになれば、「自慢大会」をやってみれば知ってもらえる機会になると思うが、それが直ちに成果指標に反映されるかという点と難しいであろう。

藤本委員

指標は数字で示さざるを得ないが、こういった取組みは中々数字で出すのが難しい。

例えば、評価のやり方を「エピソード評価」としてはどうか。些細なことでもそれを聞いた市民には刺激になり、委員としても意見しやすい。次期計画の中に盛り込んでいけな
いだろうか。

岩崎会長

例えば、50人もの自治会長から日々工夫されていることを聞き取られているなら、そ

ういったエピソードや工夫も実績としてまとめてもらっていいと思う。そういった積み重ねが加入率の減少を食い止めているという評価につながるかもしれない。

横谷委員

明峰コミュニティではホームページを活用したオンライン文化祭や歩き方講座を盛り込んだハイキングなどコロナ禍だからこそ生まれた成果もある。これは地域づくり一括交付金という制度がもたらした成果である。

大西委員

この推進計画のビジョン、ゴールは何なのか。

事務局

この推進計画は川西市参画とまちづくり推進条例の理念を具体化するためのものではあるが、そのゴールがはっきり規定されている訳ではない。例えば、参画と協働に関わる市民がここまで増えれば、達成というものではない。

石伏委員

推進計画の3ページに記載されている「めざす都市像」や「地域のありたい姿」は推進条例に記載されているのか。

事務局

「めざす都市像」は総合計画の基本構想に、「地域のありたい姿」は各地域の地域別構想に記載されている。

岩崎会長

推進計画のゴールは、市民が地域の課題を解決できる仕組みがあり、そこに参加する市民が少しでも増えていくことだろう。ただ、参加する市民が何%ならゴールだと明確な物

はない。

また、皆が皆が同じ方向を向いて進んでしまう街ではなく、そこに向かってしっかりと議論ができる街が良いと思う。放っておいてほしいと思う市民を放っておけるまちが良いのであって、あやふやなものであると思う。

京極委員

先程、エピソードでの評価というご意見もあったが、エピソードばかり示されても仕方がない。エピソードと数字、両方が必要である。

ところで、この待ッティングカードとトリカワカードのターゲットは誰か。

事務局

待ッティングカードは、人材を募る際に具体的に募集したいターゲットをイメージして作成するものであるため、ターゲットは様々である。

藤本委員

資料の3ページにあるように、待ッティングカードは、表面に活動の一步を踏み出せない方の疑問や不安を記載し、裏面にそれらを払拭するアドバイスや団体の魅力などを、イラスト等を交えて掲載するカードである。

丸谷委員

活動の一步を踏み出せない方の疑問や不安は、実際に聞き取りで集められたのか作成者の想像なのか。

藤本委員

人材を募る団体と推進会議のメンバーがワークショップをする中で、具体的なターゲットをイメージして、団体の方と一緒に考えたものである。一步踏み込めない方に直接ヒアリングしたわけではないので、想像と言えは想像である。

山中委員

この二つのカードは、面白い取り組みだが、市外の方もターゲットに考えているのか。その場合、市の広報誌だけではない掲載場所が必要と考える。

藤本委員

その点は、人材を募る団体がどんな人をどこから募集したいのかによって工夫が必要だと思う。一つ一つ手作りのものなので、地域の公民館や地域の商店に置いてもらえればと思う。その際に市と一緒に協働して進めていると言えればスムーズに対応してもらえると考える。

山中委員

トリカワカードは、中学校など学校の授業にも活かせると思うが、元々どのような場での活用を考えておられたのか。

田中委員

全くまちづくりに関心のない人たち、それこそ子ども達も巻き込んでいくような取り組みとして考えた。街中でこたつなどを広げてやっている内に歩いている人を引き込んでみるということも考えていた。実施にはキセラ川西せせらぎ公園の屋外でやってみたこともある。

子ども向けにイラストを工夫したり、自分たちで地域に合ったガードをどんどん増やしていくという意見もあった。お父さんもお母さんもゲリラ的に巻き込んでいくという提案である。

岩崎会長

現在、コロナでこの取り組みも止まっているが、今後の予定はどうか。

事務局

提案された市民と協働して取組みを進めていけるよう、来月に報告する場を設ける。

名畑委員

学校に導入するには教育委員会との協議が必要と考えるが、SDGsでも類似するカードゲームがあると思う。トリカワカードとセットで提案して見てはどうだろうか。

また、自治会加入率については、新規加入が少ない中で、死亡・施設入居・転出等が原因で減少していていると思われる。市は年度ごとの自治会ごとの加入世帯数を把握して算出しているのか、または前年度のデータに対して、増減情報を加味して算出しているのかどちらか。

後者であれば分析を行い、新規加入を増やす施策を行うのか、退会を食い止める施策が必要なのかといった議論が可能である。

事務局

現在は、前者である。増減要因を分析できるようなデータではない。

名畑委員

あまりに集計が難しいものを自治会に求めることは負担となるが、年度内で増加した世帯数と減少した世帯数ぐらいなら集計が可能と思われる。是非、分析できればと思う。

横谷委員

自治会とコミュニティの議論が一緒になってしまっていると思う。自治会はより生活に密着したテーマを担っており、コミュニティは自治会を含めた各種団体と合議制で議論しており全く異なるテーマを担っている。

また、自治会も加入率が高いところ低いところに二分されており、市として重要な課題と考えている。

田中委員

自治会加入率には、住宅地開発、マンションか戸建てかといったことも関係していると

考える。

例えば、マンションの方に自治会に加入いただくように制度を作っている市もある。マンションの場合は管理組合があるので、自治会加入に結び付かないこともあるようだ。また、市の北部と南部とでも状況は異なるため、色々な指標を参考に考えていかないといけない。

山中委員

潜在的な担い手の発掘と自治会加入率はどのように関係するのか。

岩崎会長

自治会に入っていなければ何のきっかけもない、自治会の抱えている地域の課題が何も入ってこない状況である。自治会に入ってみて、色々な地域の課題が見えてくると次の活動につながってくるのではないだろうか。

ただ、自治会加入率は地域差が大きいと思う。高いところと低いところは何が違うのか、オール川西ではない指標の分析も必要かもしれない。

丸谷委員

人数を実績としてすごく出されているが、年齢分けはされているのか。なぜなら、「次世代の担い手の発掘」となると30代、40代の方をターゲットとしてめざされているのかと考えている。そうすると現在の広報活動だけでは無理がある。年齢別に広報や伝え方は工夫しないといけない。

そのためには、先ほどカードについてお伺いしたように「どうして参加できないのか」、「参加したくても参加されない理由」をもっと掘り下げる必要がある。前回のアンケート時には年齢別に調査されているのか。

事務局

アンケートに回答いただく際には年齢層を把握しているが、それを分析にどこまで反映

したかは、この場ではわからない。

丸谷委員

参加されない理由と年齢別の分析は必要と考える。

自分自身が務めていた経験から考えると、川西には眠りに帰ってくるだけで、活動する余裕はなかった。きっかけがない、調べ方がわからない、どこで調べればいいのかもわからない、そんな若い方は沢山いると思う。年齢分けして動機分けして取組みを考えていくべきである。

また、日本の市役所は、手続きに行く厳格なところというイメージがある。一方で海外の市役所は市民の憩いの場という国もある。NPOの団体を支援する施設があるということも今回知った。そういった施設があるとわかっただけで、すぐに解決する課題なのかわからないが、簡単なアンケートならば回答いただけると思う。コロナ禍で都市部でなく、田舎で仕事をしながら暮らしたいという価値観も増えているので、今こそ動き出す時だと思う。

細見委員

担い手の発掘と育成の取組みは、子育て支援にもつながるものがあると感じている。

果たして自治会加入率が上がることで担い手の発掘に繋がるのかどうか。これまで少子化が止まるとされていた施策が実際は問題解決のポイントが違うのではないかと感じることもある。

課題に対して担いたくなる風土が必要ではないか。「担う」ということは責任が伴う、担う側が責任感により時間を搾取されるばかりでは担い手になろうという人はどんどん少なくなっていく。子育てでも女性が我慢しないといけないことが多く、通じるものがある。

自治会加入率を上げることが「担い手の発掘と育成」につながるためには今のままでは難しいと思う。そのためにもアンケートによる実態調査が必要だろう。

岩崎会長

これも自治会が抱えている課題である。世帯主が構成主体であるために男性中心の団体になってしまう。しかし、実際にはその裏で女性が支えているという二重構造になっている。

また、自治会は専門的な組織ではない、そのため子育てや学校支援といった専門的な分野になるとその分野を担う人が集まってくるが、その活動を行うとなると一番その地域の色々なことを知っている団体が必要になる。現在、それが自治会である。そこを窓口にして色々な人が出会い、新たな活動につながっていくというのが、一つのルートである。

ただ、そのルートは色々なルートがあり、それをみんな模索している。例えばラウンドテーブルという取組みもその一つであろう。ただ、これに人が集まらないというだけではなく、どんな成果があったのかというのが評価の基軸でないといけないと思う。

藤本委員

地域の課題は地域ごとに様々である。ある課題で立ち上がった人達が地域の担い手にもなることが理想的だが、どんな課題も全市的に議論するが、解決するにはどうしても地域に根付かせないといけない。そうすると自治会長に全て担わせてしまっている構造になってしまっていることが良くない。

人材育成を考えたときに、その地域の課題をテーマに解決する人を集める、OJTはどうだろうか。その課題は、漠然としたものではなく、その地域にあたった具体的な課題でないと人は集まらない。

そうなるとそのテーマを所管する部署が一緒に入っていないといけないが、参画と協働の取組みは、参画協働の部局がやるべきことだとなっている。

細見委員

子育て支援にNPO法人で取り組んでいるが、自分が子育てをしていた時に拠点へ遊びに来ていたお母さんが今はスタッフである。最初に地域から受けた愛着が地域への愛着に育っていると感じている。発掘よりも先に、人を育成する風土、人に愛着を育むことがで

きる地域というものが大切と感じている。

西原委員

多田福祉委員会で活動する中で、皆さんが安心して暮らせることを心掛けている。現在、子どもの居場所がない、特に孤食が課題となっており、子ども食堂を立ち上げようとしている。国が簡単にできると説明する一方で、営業許可など難しい課題が色々ある。広く多くの方に来ていただくには公民館が良いのだが、営業許可の問題で頓挫しそうになった。

しかし、ネットワーク会議や自治会長、小学校の校長先生や幼稚園の園長先生など多くの方との議論の結果、ようやく一步踏み出せることろまできた。

子ども食堂だと、貧困世帯の方が来ているとみられては良くないので、料理教室という居場所の中に食事ができるようにすることや名前などを工夫も必要だということが見えてきた。やってみて初めて分かる課題もある。

岩崎会長

何か地域でやってみようと思意する場所が必要である。そこで生まれた活動に対して、知恵を貸してくれるところが市役所である。また、地域でやってみたいということをもとめていくことをコミュニティがやってきている。

久保田

自治会加入率が横ばいなのは、やはり災害時などに救助を待っているだけでなく、共助で支え合うことが大事であると思われるからと考える。自慢大会のように自治会に加入すると何か魅力的なことがあると打ち出していくことが大切だ。

新たな担い手として若い方をと考えたとき、コロナで多くの方が仕事の形や考え方を変えてきている。そういうことも踏まえて広く色んな人が参加できることがないか。

岩崎会長

これまで働きに出ていた方が市内にいる時間が長くなっている。地域に関心が向いてい

る方も増えている中でどうやって巻き込んでいくのか。そういった方がラウンドテーブルなどに参加しやすいテーマは何なのか考えていくことが必要だろう。

岩崎会長

最後に、「トリカワカード」と「待ッティングカード」の取組みには是非皆さんも協力いただきたい、これは基本方針1の評価にもつながる。

ただ、市のやっていることは数字に結び付けていくことは難しい中で、主な実績が簡単すぎるという意見もあった。

今回は基本方針1について、議論した。次回は基本方針2と3について、2月に予定されている。事務局としては、年度内には検証を終えるということによいだろうか。

事務局

その予定であるが、スケジュールの再調整が必要であるとする。

3 閉 会

(終了)